

巻頭言

公立大学協会図書館協議会は、1955年に設立以来、「公立大学図書館相互の連絡ならびに研究にあたり、公立大学の使命達成に寄与する」ことを目的に、これまで54年にわたって活動してきました。平成20年度も、本冊子に報告されております通り、私立大学図書館協議会とともにPULC公私立大学図書館コンソーシアムを組んでの電子ジャーナル版元との交渉、国公私立図書館協力委員会での著作権や学位論文電子化に関する検討や「オープンアクセス」に関するシンポジウムへの参加、職員研修会の実施、筑波大学主催の職員長期研修への派遣などの事業を行ってきました。また、地区ごとにも講演会や研修会などが開催されており、公立大学図書館の学術的・社会的機能の向上のための活動を続けております。

今年度は、協議会の運営においていくつかの変化の見られた年でもありました。昨年度の第2回拡大役員会および今年度の総会に先立って開催された事務長会では、協議会の財政上の脆弱さと、各大学個々の職員削減、予算削減による体力低下の問題を背景として、「協議会の今後のあり方」について大変熱心で率直な討議が行われ、経費削減と関係委員会派遣委員の分担についての今後の方針が合意されました。その結果として、事業費と事務負担の削減につながるいくつかの業務見直し案が今年度の総会に提出され承認されています。

今日、加盟公立大学のうち半数以上が公立大学法人化しており、さらに設置自治体の財政状況の悪化、百年に一度といわれる未曾有の経済不況の進行などによって、図書館運営の厳しさは年を追うごとに増えています。しかし、グローバルな学術情報の集積と提供および学術情報の発信センター、すなわち「知」の源としての大学図書館に対する大学内外からの期待は増すことはあっても減ずることはありません。各大学図書館は公立大学図書館共通の課題に対しては一致協力して解決を目指し、各大学個別の問題については大学間相互の情報交換を通じて解決の糸口を探る努力を続ける必要があります。協議会はこれらの問題解決において今後とも中心的な役割を果たして行くものと確信します。協議会としても不断の自己改革をもって時代の変化に対応して行かなければなりません。

平成20年4月1日付で公立大学協会図書館協議会の会長館をお引き受けして後、総会をはじめとする各種の行事や活動をどうにか無事に遂行してまいりました。これも加盟館の皆様のご協力によるものと、心から御礼申し上げます。とくに、前会長館の北九州市立大学、総会開催を担当いただきました宮城大学、役員館の皆様にはひとかたならぬご指導・ご鞭撻をいただきました。退任に際しまして、改めて感謝申し上げます。

平成21年3月

公立大学協会図書館協議会館長館
福島県立医科大学学術情報センター長

八木沼洋行